

必達！1等比率90%以上！！

稲作管理情報 第2号

平成23年4月2日
 いなば農業技術者協議会
 事務局 TEL67-8000 【JALいなば営農生産課】
 【西部支店】67-8200 【東部支店】67-8300
 【南部支店】61-8900 【福岡支店】64-8600
 【高岡農林振興センター】26-8480

育苗計画

(中山間地域はJAいなば営農指導員にご相談ください。)

	3月							4月														5月																															
	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
田植日 5/1								浸種 12日間(10℃)							タフブロック 浸漬	催芽	播種	撤出	育苗期間:20日間(播種日含む)														田植																				
田植日 5/15								浸種 10日間(12℃)							タフブロック 浸漬	催芽	播種	撤出	育苗期間:18日間(播種日含む)														田植																				

注)タフブロックを使用すると、従来の薬剤処理に比べ育苗日数が2~3日短くなりますので4月25日以降の播種の場合、育苗日数は18日程になります。

今年の種子粒は昨年的高温の影響から休眠が深くなっています。浸種期間を少し長くしましょう(積算温度120℃)

1. 種粒の準備・浸種

品種	1箱当りの播種量		乾粒重※ (kg/10a)
	乾粒量	芽出粒重	
てんたかく コシヒカリ てんこもり	120	150	3
五百万石	140	175	4
新大正糯	120	150	3

※乾粒重(kg/10a)は10aあたり苗箱22枚として算出

2. 比重選

○硫安による比重液の調整 (水10ℓあたり)

	比重	硫安の量
うるち	1.13	2.5kg
もち、酒米	1.08	1.5kg

比重選を行った種粒は発芽不良を起こさないように水洗いを行い、硫安をよく洗い流してください。

3. 種子消毒

①タフブロックを使用する場合

○浸種期間中の最後の2日間でタフブロックの処理を行う
 ○粒量と薬液量(200倍液)

乾粒量	水	タフブロック
10kg	20ℓ	100g
50kg	100ℓ	500g

○注意事項

- ・乾粒は消毒済種子を用いてはいけない。(タフブロックの効果が失われてしまう。)
- ・薬液量は種粒量の2倍の量を準備する。
- ・タフブロックへの浸漬時は12~15℃を保ってください。
- ・タフブロックへの浸漬時間は24~48時間です。
- ・浸漬後はそのまま陰干して播種に備える。(水洗い不可。天日干し不可。)

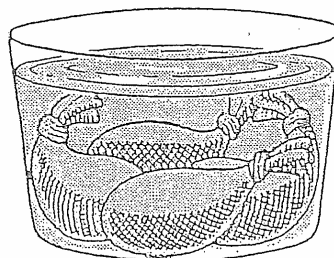
※浸種後は(1)蒸気式催芽、または(2)ハトムネ催芽機による催芽を行う。(設定温度30~32℃を必ず守る)
 ※播種時にはベンレートやダコレートを使用しない。(タフブロックの効果が失われてしまう。)

②テクリードCフロアブルを使用する場合

○粒量と薬液量(200倍液)の割合

乾粒量	水	テクリードC
5kg	10ℓ	50ml
10kg	20ℓ	100ml

薬液に24時間浸漬の後、浸種を行う。



浸種

- ・最初の3日程度は水の入れ替えは行わず、それ以降は酸素不足とならないように2日おきに水の入れ替えを行う。
- ・浸種ムラとならないように時々粒袋を反転させる。
- ・浸種日数は、積算温度で120℃程度とする。(12℃で10ℓ(昨年は登熟期間が高温で推移したことから休眠が深くなっており、十分な浸種[温度・日数]が必要です)
- ・気温が高くなるにつれ、芽の伸び過ぎにも注意してください

- ・薬液量は種粒量の2倍の量を準備する。
- ・200倍液に24時間浸漬する。
- ・浸漬するときの液温は10℃以上を保つ。
- ・同じ薬液で2回まで消毒が可能。

タフブロックを使用する場合はこの処理と同時に行う

③温湯消毒を行う場合

催芽時に食酢 (ハトムネ催芽機)	比重選 → 水洗 → 乾燥 → 温湯消毒 (60℃・10分) → すぐに冷却 → 浸種 → 食酢処理 0.1%食酢液中で催芽 24時間(ハトムネ催芽機) → 播種
浸種時に食酢 (蒸気式催芽)	比重選 → 水洗 → 乾燥 → 温湯消毒 (60℃・10分) → すぐに冷却 → 浸種 浸種期間の最後の24~48時間は0.1%食酢液で浸種を行う → 催芽 → (蒸気式) → 播種

※温湯消毒と食酢処理、さらにタフブロックを用いることで防除効果は高くなる (0.1%の食酢処理を行う際に、タフブロックの200倍液を同時に使用する)

○注意事項

- ・温湯消毒を行う前に少量の種子を用いて、あらかじめ発芽率を確認する。
- ・発芽率が低下しないように温度(60℃)と時間(10分)、そして冷却を確実にを行う。
- ・食酢処理の際、食酢の濃度を確実に調整する。
 [酸度4.2~4.5の食酢の場合 → 40倍に希釈]
 [酸度22の食酢の場合 → 200倍に希釈]
- ・消毒後の食酢液は重曹で中和するなど、適正に処理する。

タフブロックを使用する場合はこの処理と同時に行う

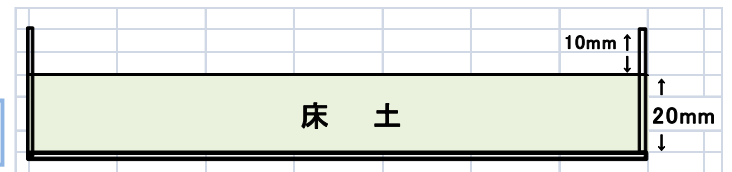
4. 催芽

- ・催芽は育苗器(蒸気式)または「ハトムネ催芽機」を使用する。
- ・催芽の温度は30～32℃とする。
- ・催芽中は種籾袋を度々反転させ、温度ムラを無くし、芽の揃いを整える。
- ・芽長は1～2mmの「ハト胸」状態になっていることを確認する。



5. 播種

- ・床土入れ
- ・芽出し籾は握っても手に付かないくらいに陰干しておく。
- ・作業を始める前に試し播きをし、播種量を調整、確認しておく。
(コシヒカリの種籾は、湿った状態で150g/箱)
- ・覆土は箱当り1kg(5～7mmの厚さ)を目安に的確に行う。(転び苗等の防止)
- ・ダコレート水和剤のかん注：1箱当り 1000倍液 1Lまたは500倍液 500mLかん注する。
[注意] ただし、タフブロックによる種子消毒を行った場合はダコレートを不使用しない。

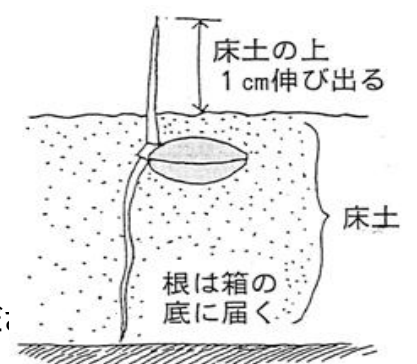


6. 出芽

- ・出芽温度は28～30℃を厳守する。(30℃以上になるとカビの発生が多くなる)
- ・芽の長さが1cm程度に伸びたときを目安とする。

7. 搬出作業

- ・芽の長さが1cmに伸びた状態が適期で早朝に搬出する。
- ・搬出後は覆土が落ち着く程度の灌水を基本としますが、気温が高い場合は十分な灌水を行ってください。
- ・種籾が露出している場合は覆土を加えるとともに、搬出後は寒冷紗等により2～3日の間、遮光と保温に努めてください。
- ・ハウス内の温度が高い場合(30℃以上)は、搬出直後でも苗がヤケないように風下側を開けてください。



8. 育苗管理

- ・苗が緑化した段階で(1葉期)で被覆資材をはずします。
- ・この時期(緑化期：2～3日間)昼はハウス内の温度を25～30℃、夜は10～15℃に保ち、夜は10℃以下とならないように注意ください。
(30℃を超えると細菌性病害の発生が助長されます。また、10℃以下になると生育停滞や、ムレ苗の発生につながるため、ストーブ等による加温をしてください)
- ・硬化期(13～15日間)には、ハウス内の温度を昼は20～25℃、夜は10℃以上に保ってください。田植の1週間前頃からは夜もハウスを開け、外気に慣らすように管理してください。
- ・硬化期の灌水は1日1～2回とし、早朝には箱の底まで十分に浸透するようにたっぷりかけてください。

苗のステージ	出芽期	緑化期	硬化期
育苗日数	3日 (3日)	2～3日 (3～4日)	13～15日 (15～20日)
温度	昼	30℃	25～30℃
	夜	30℃	10～15℃
			10℃以上

()内の育苗日数は4月上旬に播種した場合の日数

◎ 土壌改良資材の施用(春施用)

○土壌改良資材

資材名	アルカリ分	ケイ酸	施用量
元気	32%	24%	60kg以上
ケイカル(粒)	35%	28%	100kg以上
省力ケイカル	38%	30%	45kg以上

○中間追肥省力資材

資材名	アルカリ分	ケイ酸	カリ	施用量
カリ入りスーパー活源	31%	28%	3%	
カリ入り元気	27%	20%	3%	80kg
有機カリ入シリカロマン	36%	20%	4%	以上

※近年、水田土壌中のカリの含有量が減少した傾向となっています。22年度の土壌調査で、交換性カリの数値が15mg以下の水田にはカリ入りの資材の施用をお勧めします。

